

次期SIPのフーズビリティスタディ(FS)の予算配分について

令和 4 年 5 月 26 日

SIP 総 括 担 当

次期SIPのフーズビリティスタディ(FS)の実施のため、以下のとおり各課題候補にFSのための予算配分を行うこととする。

1 予算配分の考え方

FSの予算配分については、「令和4年度のSIP予算配分の考え方について」(令和3年12月23日ガバニングボード決定)により、1課題候補当たり2億円以内とし、1億円を基礎的な配分、モデルの試作等を実施する場合に追加配分(1億円以内を想定)を行うこととした。

一方、1月～2月に実施した情報提供依頼(RFI)においては、1,000件近い数多くの情報提供があり、内容も多岐にわたるため、FSでは幅広い観点からの検討が求められている。また、研究推進法人を担う独立行政法人やその所管省庁との調整においては、契約に要する期間の確保や事務手続きに対する負担の軽減についての要望があったところである。

このため、課題候補毎に、RFI件数が多いことに伴う調査件数の増加、多様な観点からの調査範囲の拡大などを踏まえ、あらかじめ基礎的な配分(1億円)に加え、追加配分(1億円以内)で予定していた金額を加えて配分を行う。

また、PD候補、検討タスクフォースのサブ課題有識者の諸謝金及び委員等旅費について必要額を内閣府事務局経費に移し替えを行うこととする。

2 課題候補毎の配分額

次期 SIP 課題候補	配分額(億円)
豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築	2.0
統合型ヘルスケアシステムの構築	2.0
包摂的コミュニティプラットフォームの構築	1.75
ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築	1.75
海洋安全保障プラットフォームの構築	2.0
スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	2.0
サーキュラーエコノミーシステムの構築	2.0
スマート防災ネットワークの構築	2.0
スマートインフラマネジメントシステムの構築	2.0
スマートモビリティプラットフォームの構築	2.0
人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	1.75
バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	1.75

先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進	2.0
AI・データの安全・安心な利活用のための基盤技術・ルールの整備	2.0
マテリアルプロセスイノベーション基盤技術の整備	2.0

2 内閣府事務局経費

フィージビリティスタディの実施にあたり設置する検討タスクフォースの運営に必要なPD候補(タスクフォース座長)、サブ課題の有識者への諸謝金及び委員等旅費を内閣府事務局経費に移し替える。

項目	金額 (単位:千円)	内訳
諸謝金	39,930	PD 候補 15 人、サブ課題有識者 45 人
委員等旅費	27,152	全国平均 20 人*2回/月、ブロック内 40 人*2回/月
合計	67,082	

3 その他

未配分額(1.12 億円)については、SIP 第2期自動運転(システムとサービスの拡張)の留保分、次期 SIP に向けた配分及び年度途中で機動的に対応すべき事項が生じた場合等に対応するための経費として留保する。